

令和4年度事業報告書

1】全体総括

令和3年度に続き、新型コロナウイルスへの感染防止対策を徹底しながらの事業運営となりましたが、幸いにも令和4年度においては、集団感染の発生はなく、事業所を閉所するようなことなく経過しました。

各事業所の支援の現場においては、マスクの着用、換気、消毒など、基本的な感染防止対策が日常的なものとして定着してきました。

また、施設の空調を高性能換気機能付きの空調設備に入替え工事を行ったほか、各作業室に高性能の空気清浄機を設置するなど、新型コロナウイルスへの感染防止対策の充実が図れた1年となりました。

コロナ禍の影響で実施を見送ってきた「れっつまつり」についても、これまでの屋外実施から屋内実施という形にし、宇治田原町総合文化センターにて、3年ぶりに実施することができました。

財政面については、障害福祉サービス等事業収入のうち、生活介護、共同生活援助事業（グループホーム）において、利用者の増加と加算の取得の影響で、昨年度比10%の増収となりました。

一方、人件費、事業費、事務費など支出については前年度に比して各々増加しましたが、人件費以外は概ね予算内に止まりました。

よって、今年度については、資金収支、事業活動収支ともに黒字決算となり、運営は堅調に推移したといえます。

2】第2期中期計画について

法人が設立された20年前に比べると、社会全体が大きく変容するなかで、社会福祉法人の役割や課題も変革が求められているといえます。

当法人においても、社会的な役割を意識した法人運営を実施するためには、これまでの実績を基盤としつつ、法人組織全体のさらなる活性化に取り組む必要があるという観点から、今年度は「第2期中期計画」（2022年度～2024年度）の初年度として位置づけ、以下の4項目を基本方針として各事業の取り組みを進めました。

- ①「法人組織の活性化」
- ②「就労支援事業の拡大と充実」
- ③「生活介護事業の拡大と高齢化・重度化対策」
- ④「地域生活支援部の連携の強化」

3]各事業の総括

(1) 法人本部

1. 理事会・評議員会の状況

法人本部事務局として、理事会、評議員会の開催について、その運営の事務を予定通り実施した。

《第1回理事会》

ア期 日 : 令和4年5月21日(土) 10:00~12:00

イ議決事項: 令和3年度事業報告及び決算の件
定時評議員会の議案・開催日時
の件
給与規定・就業規則の改正
の件
空調設備入れ替え工事に係
る借入金及び随意契約の件

《第1回定時評議員会》

ア期 日 : 令和4年6月18日(土) 10:00~12:00

イ議決事項: 令和3年度事業報告
及び決算の件
ウ報告事項: 理事長の職務
執行状況の報告

《第2回理事会》

ア期 日 : 令和4年12月17日(土) 10:00~12:00

イ議決事項: 令和4年度補正
予算の件
理事候補者の件
新評議員候補者の選定の
件
評議員選任解任委員会
招集の件

《第3回理事会》

ア期 日 : 令和5年3月9日(日) 10:00~12:00

イ議決事項: 令和5年度事業
計画及び予算の件

2. 経理・財務管理

社会福祉法人新会計基準に基づく経理を実施し、法人全体の財務状況の管理を適正に実施した。

毎月の経理処理の確認と月次報告書の作成を遅滞なく行えたことにより、財務状況

が明確になり、計画的な予算執行が実施できたといえる。

今年度は、グループホームの給湯器の故障や水道管の破損など、予定にない費用が掛かることになったが、予算内流用の範囲内で処理することができた。

また、電気代やガソリン代の高騰があったが、今年度については、行政からの補助金や家族会からの寄付金などにより、財政に大きく影響することはなかった。

3. 人事労務

職員の人事労務管理については、その業務を社労士事務所へ委託して実施した。勤怠管理、各種届出については、法人事務局にて管理を行い、適正な処理を実施することができた。

職員の人事及び異動については、新規採用が3名、退職者が6名となり、職員数は令和4年度末で、正職員23名非常勤職員16名となった。

全国的に、介護人材が不足する状況となっていることが、社会的な問題になりつつあるなかで、職員の新規採用については苦慮した1年であったが、運営基準に定められた職員配置は維持することができた。

【採用】

採用年月	性別	職種
令和4年4月	男	生活支援員
令和4年7月	男	生活支援員
令和4年10月	女	児童指導員

【退職】

退職年月	性別	職種
令和4年7月	男	生活支援員
令和4年9月	女	生活支援員
令和4年10月	男	生活支援員
令和5年2月	男	生活支援員
令和5年3月	女	児童指導員
令和5年3月	男	生活支援員

4. 福利厚生

職員の健康管理及び福利厚生のため、生活習慣病健診（政府管掌）を全職員対象に実施した。また職員のリスクマネジメントとして、業務災害、傷害保険、損害賠償保険の更新手続き引き続き行った。

5. 施設管理・安全管理

新型コロナウイルスなどの感染症対策として、サービスセンター「うじたわら」施設の空調設備を、高性能換気設備機能が付いたものに入替工事を実施した。

その他、各作業室、食堂、グループホームなど利用者の集まる場所に高性能の空気清浄機を完備した。

また、送迎車両の安全管理を徹底するために、乗車前後の安全確認を徹底するために、新たに車両の運行についてのマニュアルを作成した。さらに法人所有の車両全車にドライブレコーダーを設置し、定期的を確認することで、職員の危機管理に対する意識の向上を図る取り組みを行った。

(2) 通所支援部

1. 生活介護・就労継続支援 B 型（多機能型）事業の状況

◆事業所名称：障害福祉サービスセンター「うじたわら」

【生活介護事業】

昨年度に引き続き、利用者の障害特性によって4つの班編成を行い、日中活動の充実を図った。

生活介護については、基本的には作業活動を行うことを日中活動の中心とすることを目指して支援した。

作業内容としては、従来通りのプラスチック製品の、シール貼りや袋入れを中心に、新たに箱折りの仕事の請負がはじまるなど、請負作業については途切れることなく継続することができた。

利用者各々の作業能力の差はあるものの、各班とも作業への集中力や作業効率があがってきている。

りんくる班については、身体障害や加齢により、身体機能の低下や介護度が上がるリスクが高い方たちのグループということで、午前中は、体操や運動、機能訓練などのリハビリテーションを組み入れたプログラムを実施し、午後からは入浴、排せつなどの身体介助を中心にした支援を行った。

また、各班において、職員業務の効率化を図るとともに、運営基準に即した支援が行えているかどうかを検証するために、職員業務の全面的な見直しを行った。

業務が重複して、不効率なやり方になっていたり、必要な記録が抜けがちになっているといったことが浮き彫りになり、必要な改善を行うことができた。

【就労継続支援 B 型事業】

主な活動内容としては、昨年度に引き続き、農作物の栽培、販売、飲食店（うどん店）の経営、パン・クッキーの製造販売、柿酢の製造販売などに取り組んだ。

新しく作業場ができたことにより、作業効率が向上したことや、利用者の仕事への取り組み姿勢が主体的になり、毎日の作業活動がより充実したものになっている。

新型コロナの影響もあり、就労事業全体の収益は当初の予算には届かなかったが、昨年度に比べると収益増となり、平均工賃 45,000 円/一人を達成することができた。

また、新たな行事として、「仕事参観」を行い、家族の皆さんに利用者の仕事ぶりを参観していただき、収穫した野菜を使った料理をみんなで食べるといった取り組みを行い、大変好評であった。

【生活介護グループ編成】

グループ名	障害特性	主な支援目標	利用者数
りんくる班	高齢・重複障害（身体・知的）	身体機能の維持、向上を図る	6名
らいと班	重度知的障害	作業に向かう姿勢を養う	5名
りーふ班	自閉症スペクトラム	作業への集中力を身につける	7名
れつつ班	中軽度知的障害	作業能力の向上を図る	12名

【就労継続支援 B 型グループ編成】

グループ名	主な作業内容	支援目標	利用者数
農作業班	野菜の栽培・販売 （有機・慣行）農業全般 農作業の請負	農業技術の習得 就労意欲の向上 社会性の育成	11名
加工班	菓子・パンの製造 柿酢の製造・販売		5名
飲食班	うどん店の経営		3名

【利用者の状況】

(生活介護) 定員 26 名 ※数字は実利用者 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分 6	8	8	8	8	8	8	8	9	9	8	8	8
区分 5	17	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16
区分 4	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
合 計	31	31	31	31	31	31	31	31	31	30	30	30

(就労継続支援) 定員 14 名 ※数字は実利用者数 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分 4	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10
区分 3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
区分 2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
非該当	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合 計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18

(3) 地域生活支援部

1. 放課後等デイサービス・児童発達支援(多機能型)事業の状況

◆事業所名称：児童デイサービスにじいろ

利用希望の児童は年々増加傾向にあるが、今年度も全員を希望通りに受け入れることは困難な状況となっている。

利用児童の障害の程度も幅広くなっており、障害の程度や特性に合わせた療育や支援を行うためには、定員増とともに職員の増員が必要になっている。

【利用者の状況】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用者数	209	196	230	215	167	221	211	220	214	190	198	230
開所日数	20	20	23	21	19	21	20	21	21	19	20	23
平均利用者数 (一日あたり)	10.4	9.8	10	10.2	8.7	10.5	10.5	10.4	10.1	10	9.9	10

2. 共同生活介護事業の状況

◆事業所名称：ケアホームむくの家（むくの家・さくらの家・くるみの家）

新型コロナウイルスの感染対策のため、食事の時間を分散させる、自立している方は自室で食事をするようにする、入浴は時間をずらして、一人ずつ入るなど、これまでの生活スタイルを変更することを余儀なくされた1年となった。

利用者の皆さんについては、これらの変更に対して特段の混乱もなく、むしろみんなで集まる機会が減ったことで、これまでより落ち着いた生活ができてきている様子が見えた。

昨年度、長期入院中であった60代の利用者さんが1名お亡くなりになったことに続き、長く療養中であった、70代の利用者さんが1名、また令和5年に入ってすぐ、40代の利用者さんが急な病気でお亡くなりになるということが相次いで起こった。

いずれも、持病があった方々ではあるが、日常的に医療的ケアの必要な利用者さんの生活の支援については、現状の支援体制での限界を痛感させられた1年でもあった。

【利用者の状況】

（むくの家） 定員 10 名（男性） (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分4	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2
区分5	5	5	5	5	5	4	4	3	3	3	4	4
区分6	4	4	4	4	4	4	4	5	5	4	3	3
合計	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9

（さくらの家） 定員 5 名（女性） (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
区分4	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1
区分5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
区分6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	5

(くるみの家) 定員6名(男女)

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
区分3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
区分4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3
区分6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

3. 短期入所事業の状況

◆事業書名称：ショートステイむくの家・ショートステイくるみの家

短期入所の利用については、緊急の受け入れは少なく、定期的に利用する方が多くなっている状況である。

利用理由としては、家族の介護負担の軽減、自立に向けての訓練としての利用が多い。また、生活するよりグループホームでの生活の方が落ち着くといったことから、ご本人が利用を希望するケースも増えてきており、家族を含めた課題があるケースも目立った。

【利用者の状況】

ショートステイむくの家 (定員2名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用者数	85	66	83	69	68	74	65	67	65	74	79	68
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数 (一日あたり)	2.8	2.1	2.7	2.2	2.1	2.3	2.0	2.2	2.0	2.3	2.8	2.1

ショートステイくるみの家 (定員2名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用者数	20	24	28	23	25	29	24	28	28	20	19	25
開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
平均利用者数 (一日あたり)	0.6	0.7	0.9	0.7	0.8	0.9	0.7	0.8	0.9	0.6	0.6	0.8

4. 居宅支援事業の状況

◆事業所名称：らぼらいふ

昨年度は、家事援助・外出支援（行動援護）ともに、コロナの感染状況の影響で、支援が限定的にならざるを得なかったが、今年度は感染対策をしながらではあるが、少しずつ外出の範囲も広げ、利用者のニーズにこたえることができようになった。

支援の内容としては、外出支援の利用が比較的多い結果となった。

【利用者の状況】

家事援助・通院介助

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用者数	46	42	38	35	39	43	49	40	40	39	38	41
開所日数	22	23	23	21	22	19	23	22	18	16	21	21
平均利用者数 (一日あたり)	2	1.8	1.6	1.6	1.7	2.2	2.1	1.8	2.2	2.4	1.8	1.9

行動援護（外出支援）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
のべ利用者数	51	58	69	56	54	58	63	59	60	57	63	67
開所日数	22	23	23	21	22	19	23	22	18	16	21	21
平均利用者数 (一日あたり)	2.3	2.5	3	2.6	2.4	3.0	2.7	2.6	3.3	3.5	3	3.1

5. 相談支援事業の状況

◆事業所名称：サポートことのは

昨年度と比べて、計画作成、モニタリング作成の件数はほぼ変わらず推移した。

法人の地域生活支援部の事業所間での会議を主催し、利用状況を確認することや、地域での福祉ニーズの現状について情報を共有することに努めた。

【取り扱い件数】

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
計画作成件数	3	2	30	3	4	9	7	6	3	1	6	16
モニタリング件数	17	9	32	6	11	20	15	10	30	6	12	19
合計	20	11	62	9	15	29	22	16	33	7	18	35

